

ドッジボールの簡単なルール説明

○ ここまででは知っておきたいルール

【選手人数】

各チーム12名で試合をします。選手登録(ベンチ入り)は20名までの大会が多いです。日本ドッジボール協会(JDBA)のチーム登録は20名までです。

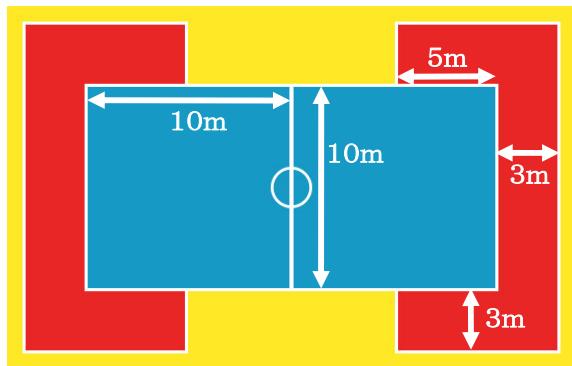
試合開始の時に12人の選手がいないと負けです。試合中にケガなどで人数が足りなくなつても2人残っていれば試合が続けられます。試合開始の時の外野は1人以上なら何人でもかまいません。試合開始の時に12人全員を外野にした場合は、たぶん負けです。(内野人数が0になつてしまうから。)

大会によって試合が10人制で登録が15人までなどの場合もあります。(これはJDBAの公式ルールではありません。)

ベンチには必ず大人が1人必要です。試合中に暴れるなどして審判から退場させられて大人が1人もいなくなると、その試合は負けで、その大会は試合に出れなくなります。監督は大人ですがコーチ、マネージャーは子どもでもかまいません。

【コート】

内野は10m×10mで外野は幅3mです。内野の中心側半分には外野がありません。



選手は自コート内でプレーしなければいけません。相手コートに入ってしまった場合はアウトプレーというファールになりますが、ボールを持ったまま相手コートを踏むとオーバーラインというファールになります。

【試合時間】

1セット5分ですが、5分やる前に内野の数が0になつたら終わりです。ほとんどの大会では時間は「ランニングタイム」といって審判が特に時計を止めない限り流しつばなしです。コート外にボールが出た時も時計は止まりません。

大会では決勝など以外は1セットマッチです。決勝などは3セットマッチです。

【勝敗】

セットが終わった時に内野の数が多い方が勝ちです。

内野の数が同じだった場合は引き分けですが、トーナメントなどで勝敗を必ずつける場合はサドンデスをやります。サドンデスは、どちらかの内野がアウトになるまで時間無制限です。

【アウトとセーフ】

相手の投げたボールをキャッチできずにコートに落としたり、相手に捕られたりするとアウトです。ただし、頭に当たった場合はセーフとなります。これは危険防止のためで、頭につけたリボンや髪の毛などにかすった時はアウトになります。

自分から「わざと」頭をぶつけていった場合はアウトです。

1人がアウトになった後、コートに球が落ちる前に別の1人に当たった時は、始めに当たった1人だけがアウトになります。

【キャッチ】

相手の投球を捕っても、そのあと「投球できる体勢」にならないと「キャッチした」と認められません。ですのでキャッチしたように見えても不完全な体勢でボールを放り投げたりすると「キャッチ失敗」となりアウトです。

ボールを「はじいて」キャッチすると「イリーガル・キャッチ」というファールになりますが、うまく捕れないでファンブルした時はファールになりません。

【アシストキャッチ】

味方がキャッチに失敗したボールをコートに落ちる前にキャッチすることです。味方はアウトになりません。

【アタックとパス】

アタックとは、

- アウト、セーフに関係なく相手選手に触れた投球
- 図の赤い斜線部分を通った投球

を言います。



パスとはアタック以外の全ての投球です。

内野同士、外野同士でのパスはダブルパスというファールになります。ボールの受け渡しは禁止です。

パスを連続で5回続けるとファイブパスというファールになります。5回の間にアタックを打てばパスカウントは0に戻ります。

試合中に選手が「ゼロ」「イチ」などと言っているのは、このパスカウントを数えています。パスカウントは主審が片手をあげて指で出しています。

選手が試合中に「ゼロコース」と叫んでいるのは、図の赤い斜線部を通るようにパスを出せという指示です。目的はパスですが、うまく通すとアタックと見なされてパスカウントが0になり、また続けて攻撃ができます。

【内野への復帰】

外野の選手は相手内野をアウトにすると内野に戻れます。いわゆる「元外野(ゲーム開始時の外野)」もアウトを取らないと内野に戻れません。

【外野のワンタッチ】

外野選手が手で触った後、ボールがコートの外に出た場合は、ワンタッチ特例で最後に触った外野ボールからゲームが再開します。ただし、ボールが手以外の部分(体、足、腕など)に最後に触った時は「ワンタッチ」にはなりません。

「ノータッチ」「ワンタッチ」の判定は線審がフラグgingでします。



【オーバーライン】

ボールを持っている選手がラインを踏んだり越えたりした場合のファールです。

アタックの時の前足だけでなく、投げ終わった後に後ろ足が前に出てラインを踏んでもオーバーラインになります。どんな場合も相手コートを踏んではいけません。

【ホールディング】

相手コートに転がっているボールを拾ったり、相手コートでボールをドリブルした時のファールです。

相手コートで「浮いている」ボールを捕るのはファールになりません。

【ゲーム再開時のボールアップ】

ボールがコートの外に出た後などゲームを再開する時に、第1投目を投げる選手はボールを頭の上にあげて、審判の開始合図を待たなくてはいけません。審判の合図の前に投げるとファール(フライングスロー)になります。

これはゲーム再開の時に両チーム(特に守備側)の安全確認のためなので選手の体勢が整うのを待ってから、審判は開始の合図をします。試合終了直前で焦っていても「審判遅えよ何してんだ！」などと言ってはいけません。